九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Spalt-like transcription factor 4 immunopositivity is associated with epithelial cell adhesion molecule expression in combined hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma

田中, ゆき

https://hdl.handle.net/2324/1654710

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（別紙様式２）

氏　　名	田中　ゆき
論　文　名	Spalt-like transcription factor 4 immunopositivity is associated with epithelial cell adhesion molecule expression in combined hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　中村　雅史 副　査　　九州大学　　教授　　田口　智章 副　査　　九州大学　　教授　　鈴木　淳史

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

混合型肝癌は肝細胞・胆管細胞の両方向への分化傾向を示す腫瘍細胞が混在する稀な肝癌であり、肝前駆細胞を起源とすることが示されてきた。SALL4 は高悪性度肝細胞癌の前駆細胞マーカーであり、混合型肝癌の発癌においても何らかの役割を担っていることが考えられる。混合型肝癌における SALL4 の役割を解析する目的で、切除混合型肝癌組織を用いて免疫組織化学染色を行い、SALL4 および肝幹細胞関連因子であるα-フェトプロテイン、グリピカン 3、EpCAM の発現を調べた。また、SALL4 発現と臨床病理学的事項の関連について統計的に検討を行った。腫瘍細胞の核がびまん性に染色される SALL4 陽性症例は、混合型肝癌 90 例中 8 例(8.9%)であった。SALL4 の陽性度はα-フェトプロテイン、グリピカン 3、EpCAM の陽性度と有意に相関していたが、予後との関連は認めなかった。以上に示した高悪性度肝細胞癌における前駆細胞マーカーである SALL4 は肝前駆細胞由来の混合型肝癌でも発現しており、SALL4 の発現は幹細胞関連因子の発現と相関関係あるという実験結果は、SALL4 が混合型肝癌の発癌メカニズムに関与しているという可能性を示唆していると考えられた。

以上の成績は比較的予後不良である混合型肝癌の治療法発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。